

パネルディスカッション

「2024年全国大会詠草集&選者賞・互選賞作品を読む」

榎本ユミ

- C―1 山鳩のこえで目覚める終日をちちははの子でいたときのように
松本志李
- E―20 きみの聲を覚えておかむとする耳は死んでも顔の両側にある
永田 愛
- F―三八 訊くことをやめて隣に座ったら三角ではなく円錐だった
吉田 典

樫沢知世

- D―二六 ポリウムを絞ったジャズが鳴るように雨音がする 手紙がきてる 鈴木ベルキ
- D―四四 麦熟れて気怠くなりてゐる午後の耳元にきて蜂が唸れり
小澤婦貴子
- E―一三 何も無い部屋がひとつだけ欲しいと思う空苺菜を食みながら
丘 光生

竹内 亮

- A―二六 収穫せし芋を食む子の笑顔消ゆWEB日記にモザイクかかりて
大木恵理子
- C―一六 つつじ刈る手を早めたり空昏み雨ひとつぶの背に落ちたれば
清水久美子
- D―四二 待つだけの時のゆたかさ冬の水レンジで二分あたためている
仲原 佳

千葉優作 (司会兼)

- A―一八 冷やされたバターのような静けさにカラマゾフを解きほぐす手だ
ドクダミ
- D―九 点描に大雪をわからせる絵の絵葉書が見当たらずぬまま去る
廣野翔一
- E―二二 何ゆゑに施設にゐるのか天井の白きに母は泣いたはずだよ
赤岩邦子

山内頌子

- A―一九 墓じまいの説明しんと聞きいたり出されしお茶の表面ふるう
杉本文夫
- A―二五 猫などで声などと言はれて鳴くことを止めたる猫がわが裡に居る
岩野伸子
- E―三四 わが筆で描きし出目金ふうりんの面より眠る母を見下ろす
染川ゆり

【選者賞】

吉川宏志賞 B 2 5

唐辛子しずめて混ぜる糠床はもう戻らない姓の手ざわり

toron*

永田和宏賞 C 4 2

とねりこの花降りしきりねむるとき目を離すこの世からひととき

中田 明子

花山多佳子賞 C 2 4

蟬の声自転車の音遠のきてもうすぐ激しい夕立が来る

堀内 悠子

栗木京子賞 C 2 8

十名の殉職刻むダムの碑にひらがな書きのをみなの名あり

伊藤 京子

真中朋久賞 B 1 4

古より人は太鼓を鳴らしきて今朝は赤子が叩く木の椅子

ばいんぐりん

三井 修賞 F 1 2

わかつてはもらえませんかと密豆の赤、黒、黄きいをつついていたり

水岩 瞳

山下 洋賞 F 2 4

わたくしの身体が覚えている時間三十分を電車で眠る

小島 さちえ

前田康子賞 F 1 7

終わらない戦争思いつつ向日葵のひとつひとつに支柱たてゆく

菊井 直子

永田 淳賞 D 3 7

私にも馬のまわりに蠅が飛ぶようにしずかな感情がある

椋沢 知世

小林信也賞 C 4 1

あそこまで行こうと思う人が居て童話が生まれアポロが飛んだ

小島 順一

山下 泉賞 B 1 0

寂しさを数ふるとなく川なかの人のつくりし飛び石わたる

溝川 清久

なみの亜子賞 D 2

我になき姉かもしれず夕方にもう一度来て山鳩が鳴く

酒井 久美子

梶原さい子賞 C 1 2

ストローの弾力を噛む 待っために必要なのは氷のちから

田村 穂隆

岡部 史賞 B 1 5

借りたものばかりで過ごす伯母の家の玄関に干すわたくしの傘

音羽 凜

村上和子賞 E 3 2

つなみいつくるんと不意に問はれたり時間のジャバラはたりと縮む

澄田広枝

【互選賞】

一位 (永田淳賞を同時受賞)

私にも馬のまわりに蠅が飛ぶようにしずかな感情がある

椋沢 知世

二位 B 1 8

やりすごすことを覚えた 風は駅に駅はあしたに手わたすやうに

田中 律子

二位 (同得票数・栗木京子賞を同時受賞)

十名の殉職刻むダムの碑にひらがな書きのをみなの名あり

伊藤 京子